

「医療機材供与を通じたトルクメニスタンの保健システム強化計画」  
機材供与式における山本広行駐トルクメニスタン日本国特命全権大使挨拶

2021年12月20日

ご列席の皆様、こんにちは。

無償資金協力「医療機材供与を通じたトルクメニスタンの保健システム強化計画」の枠組みで調達された日本製 FUJIFILM 社製の医療機材第一弾のトルクメニスタン保健・医療産業省への供与式に参加できることを喜ばしく思います。本日の行事により、必要な医療機材の調整と購入に係る重要な作業が一段落したことになりますが、今後も外国製機材の更なる調達、設置、医療関係者へのトレーニングなどを含む、多くの作業が残されています。

供与額 2.98 億円（約 3 百万米ドル）の本プロジェクトの枠組みにおいて、日本政府は UNOPS を通じてトルクメニスタンの医療機関に対して稼働式レントゲン装置、人口呼吸器、超音波検査機、気管支鏡検査機その他を供与します。

本件プロジェクトに関する書簡の交換から 9 か月が経過しました。この間、UNOPS、大使館、保健・医療産業省はオンラインでの打ち合わせや面談を重ね、各医療機材の仕様その他の重要な問題の調整を行ってきました。

これに関連し、在トルクメニスタン UNOPS、保健・医療産業省、産業複合体«Lukmanchylyk Enjamlary»、トルクメニスタン外務省の関係者に対し、プロジェクト実施に向けた惜しみない支援と協力への感謝を表明したいと思います。

当プロジェクトがトルクメニスタンの保健システム全般の強化に資するだけでなく、日・トルクメニスタン両国民の間の友好、連帯、相互支援の象徴となることを確信します。

新型コロナウイルスの世界的蔓延という状況にも関わらず、日本とトルクメニスタンとの協力関係は様々な分野で拡大しています。二国間協力の重要な出来事としては、今年 7 月のセルダル・ベルディムハメドフ副首相による東京 2020 開会式参加のための東京訪問が挙げられます。このほか、9 月にはレバプ州チェルジェウ地区ガスタービン発電所の開所式が行われ、江島経済産業副大臣が参加しました。

なお、来年 4 月 22 日は日本とトルクメニスタンとの外交関係樹立後 30 年となります。日本は今後も文化及び人道交流を通じて両国民の相互理解を深めるために努力する用意があります。この目的のため、現在、30 周年を記念する様々な行事の企画が進められています。

最後に、我々の共通の目標達成のために各関係者が果たした貢献に感謝するとともに、皆様のご検討、ご健勝、ご成功をお祈りいたします！

ご清聴ありがとうございました。

